

〔論 説〕

英語学習における ICT 活用による支援の検討と実践

渡 辺 恭 人

1. はじめに

大学4年間の学修期間においては、より高いレベルでの実践的な英語力が求められている。筆者が所属する国際教養学部においては、海外短期研修という2ヶ月の留学が必修となっており、またグローバル人材としても、英語に代表される外国語の運用能力を身につけることが重視され、ネイティブの教員で構成された英語の語学学修が行われている。

大学においては英語力の向上のためには授業が中心となることは間違いないし効果も上がっているが、学修者自身が授業外での学修を継続的に行うことにより、学修内容の定着や学習者個々で異なる能力や知識の不足を補完することが必要となる。実際には、自主的に自分に適した必要な授業外学修を行うことは個人に任されているのが現状である。

本稿では、英語学習においてICTを活用する方法を検討することにより、学習者が授業外学修を自分で取り組めるような支援につなげることを目指す。

2. 大学生の英語学習と支援

大学生の英語学習については、方法そのものよりは、学習者の意識やモチベーションと実際に取り組まれている学修内容についての質的調査の研究がある。

文献[1]では、学習者は英語力を高めるためにすべきことが、授業、自主的な学習、外国人の先生、海外渡航などと考えているが、授業外学習への取り組みは2割に過ぎないことが述べられている。また、効果的な学習方法を模索するのは学習者自身であり、教師は学習法と学習者の接点を提供するべきであると述べられている。学習者が取り組みたい学習方法について、やりたいと役立つが一致するものとしなないものがあり、学習者の理解が不十分であれば教師が効用を説明すべきとしている。学習者は高等学校までの英語教育と学習の経験を中心に必要な英語学習を捉えており、英語力とは何であるか、英語力の向上に必要なことについての知識や理解が不足しているとも考えられ、そこへの連携は教師が行うべきと考えられる。

文献[2]では、英語学習に対する捉え方を質的に明らかにしようとするケーススタディで、「大学入学以降はコミュニケーション力の向上を重視した主体的な学習方法をとるように変化している様子が最も顕著」であるとしている。読み書き中心であった高等学校までの教育からコミュニケーション力の向上の必要性を理解し主体的に学習するという、文献[1]と比較すると学習者の意識が向上している。これについては「大学での実践的な授業形態が影響を与えているのではないか」と考察されている。

文献[3]は「日本人英語学習者のモチベーションと英語学習方法に関する質的研究」

で、「教職課程を履修している大学生」を調査対象としている。将来英語の先生になるという目標が明確な学生がどのような英語学習に取り組み、どのようなモチベーションを持っているか、モチベーションがどのように生じたのかについて述べられている。英語が使えるようになりたいと思うだけでは行動につながらないことや、教師が学習者の学習動機を与えられるように環境を整えることが重要であるとしている。成績が上位のグループでは、経験的な学習をより好み、英語の使用機会を増やす学習や経験を継続性と周期性を維持して行うが、下位では、分析的な学習が好まれ、学校の教科書をしっかり読んで英語を学ぶ、たくさんの練習問題を解くなどの学びが多い傾向があると述べられている。また上位グループの学習の共通点として「人と人とのインタラクションがあるか、学習者が聞いたものや読んだものに対して自分の意見を書いたりして自分の考えを表現する機会を作っている」があり、このような環境を作ることが経験的な学習につながることを示唆されている。

文献 [4] では、文献 [3] よりさらに詳細な学習内容とその分類、TOEIC テストの成績との 関連性について述べられている。11 個の概念と言語熟達度で、高群では他者とインタラクションをとまなう英語学習が行われている、低群ではリメディアルな英語学習が行われていることが示されている。低群で行われている学習内容が、TOEIC テストの成績の向上に寄与するのか、その集団が高位群に移行できたとして、既存の高群と同様な、他者とインタラクションをとまなう英語学習を行ったり 4 技能向上に関する、学習を行うようになるのかは不明であった。

国際教養学部ではグローバル人材の育成をめざし、外国語の学習においても、より実践的な外国語力（英語または中国語）を身につけられるように設計されている。週 3 コマの授業はすべてネイティブスピーカーの教員により行われており、会話を中心とした内容で構成されコミュニケーション力の向上が目指されている。

文献 [2] で述べられていたような「コミュニケーション力の向上を重視した主体的な学習方法」へつながる学習が行われている。また、文献 [3] [4] で指摘された「他者とインタラクションをとまなう英語学習」のモチベーションにもつながると考えられる。またネイティブスピーカーのスタッフと常時インタラクションをとれる学内の International Square もモチベーションに寄与する。

国際教養学部では、1 年次と 2 年次の 7 月と 12 月、TOEIC-IP テストを実施しているが、例年、リスニングはリーディングより高い傾向がある。考えられる原因としては、ネイティブの教員による会話力の強化に重点を置いた授業の成果によるものといえるが、会話以外に行っている文法、リーディングの学習が得点にややつながっていないようである。学んだ内容や得た知識や技能が定着していないなど、文献 [1] にあるように授業外学習が不足している可能性も考えられる。特に、知識としては知っていても問題を解く力が不足していることは考えられる。文献 [4] にあるような、TOEIC テストの平均点の上位と下位での学修内容の差異については調査していない。

3. 英語学習の支援と ICT 活用

学習者の意識が高くモチベーションがあったとしても、授業外学習を行う学生が多くな

いこと、どのような学習がありどれが自分に効果的なのか知らない、ないしは知るまでに至っていないからであり、教師、教員がその接点を作るべきことは文献 [1] に示されている。

そこで、2018 年度入学の学生のうち、1 年次 7 月に TOEIC-IP テストを受験後、勉強会に参加した 9 名を対象として、TOEIC スコア向上にむけた学習とその支援を実施した。想定する TOEIC テストはリスニング・リーディング (LR) 試験で、スピーキング、ライティング (SW) 試験は範囲外とした。

3.1 学習内容と実施方法

学修内容は、文献 [4] の表 2 から、TOEIC テストに必要と思われるもの、TOEIC の全国平均より下のグループで行われる分析的学習を選択した。技能としては試験に含まれてなくても関連がある項目も選択している (表 1 参照)。

これらを、(1) 演習形式の授業、(2) 自主学習課題として教材提供の二つに分けて行った。

(1) 演習形式の授業

基礎的な文法の知識の整理と、TOEIC テスト PART5 の短文穴埋め問題に似た、2 択または 4 択の問題での演習を授業、週 1 回 90 分 2 コマ程度。Reading の D3 「英語の参考書を読んだり、問題集を解く」で、教材と問題については主に作成し、必要に応じてその他の参考書、問題集も適宜使用した。作成した資料と問題は、PDF ファイル化し、クラウドストレージや LINE グループで共有していつでも見られるようにした。演習問題出題については後述する。

(2) 自主学習課題として教材提供

当初の勉強会実施が夏季休暇期間内であったので、Reading の D3 以外の項目について

表 1 生成された授業外英語学習内容の概念とカテゴリ・コードの一覧 (文献 [4] から抜粋引用)

概念カテゴリ	No	授業外英語学習の概念名	定義
Speaking	B1	英語を音読する	英文を声に出して音読したり、単語を声に出して発音する英語学習
Reading	D3	英語の参考書を読んだり、問題集を解く	英語の参考書を読んだり、資格試験用の問題集を解く英語学習
	D4	英語の長文を読む	英語の長文を読んだり、長文問題を読む英語学習
Listening	E6	英文をシャドーイングする	聞いた英語をそのままリピートして復唱を行う英語学習
	E8	英語のリスニング教材を聞く	CD やカセット、iPod などの英語音声教材を聞いて行う英語学習
Contributory Skill	F2	文法の学習をする	文法書や問題集などを使って行う英文法の学習
	F3	語彙の学習をする	英単語帳や問題集などを使って行う英語語彙学習
Mobile Learning	I	モバイル学習	英語教材を携帯して電車やバスの移動中や空き時間の合間に行う英語学習

は、教材を提供した。紙のものはコピーまたは購入、音源についてはクラウドストレージに置いて共有し、いつでも利用できるようにした。また、先輩学生が使用して効果があったと考えられるスマートフォンアプリケーションについても紹介し、まずは使ってもらうように促した。

3.2 勉強会の学習支援での ICT 活用

上記の(1)(2)のどちらでも、スケジュール管理、課題管理、資料提供については、国際教養学部が通常利用している Google クラウドルームや Google ドライブを使用している。学生も普段から使用しており慣れているため、特に問題はなかったが新しいことがあったわけではないが、参考資料や問題集などは紙での提供が多く、購入かコピーをして配布するしかなく、教員側にも学生側にも負担となる。

上記(1)の授業内演習で使用した問題については、復習するように伝えても同じ問題だとできて当たり前であると感じモチベーションにつながらない。本来は同じ問題でも解ければ知識の定着につながる。そこで、問題と解答をデータベース化し、問題の順序をランダムにして出題し、提供した。具体的には、Excelに入力した問題と解答を、ランダムに並び替えて、Wordの差し込み印刷機能で印刷したものを提供している(図1・2参照)。

ランダム出題課題については、学生側は演習で取り組んだ問題と同じものがあったとしても新しい問題のように見え、モチベーションは高まったという。順番が変わることでできていた問題を間違えることもあり、知識の確認も行えるなどの効果も確認できた。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	問題番号	乱数	問題		選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4	正解文字列
2	1	0.045267	98	My office is located _____ walking distance of the station.	within	since	due to	for	A
3	2	0.929209	63	A colleague repaired the copier _____.	he	his	him	himself	D
4	3	0.577722	80	Applicants are supposed to send their resumes to _____ by Friday.	we	our	us	ours	C
5	4	0.013883	101	_____ a system error, we can't deliver your order immediately.	While	But	Because	Due to	D
6	5	0.260585	90	We will extend our business hours _____ June.	in	during	under	between	A
7	6	0.3R1611	87	_____ heavy traffic, I was late for the opening ceremony.	Along	Because of	Among	Instead of	R

図1 問題・回答データベース (Excel ファイル)

- | | |
|--|--|
| <p>1. I want to use this time _____.</p> <p>(A) effective (B) effectively
(C) effect (D) effecting</p> | <p>2. The shopping mall is _____ located near a station served by several lines.</p> <p>(A) convenient (B) convenience
(C) conveniences (D) conveniently</p> |
| <p>3. They are _____ reviewing the figures.</p> <p>(A) closely (B) close</p> | <p>4. The meeting conducted by the interns was _____ successful.</p> |

図2 ランダム出題された演習用問題

4. 実施状況とテスト結果

勉強会は、夏季休暇期間で5回、第3第4クォータで、4回程度実施された。第3第4クォータでの学習内容はより本番に近い形式での問題演習を実施したが、本稿では割愛する。自主学習課題は授業期間内で取り組む時間が少なかったため、リクエストに応じてランダム出題問題を提供のみを行った。

翌年2019年の3月に、本学の国際センター主催のTOEIC-IPテストを希望者7名に受験してもらった。その結果、2018年4月と比較して、リーディングで平均53.7%の上昇があった。最低で3%、最高で125%の上昇であった。リスニングでは、平均29.4%、最低3.1%、最高44%であった。総じてリーディングがリスニングより高い上昇となっていること、勉強会不参加者との比較でも上昇率は高かったことから、リーディングの学習を授業外で行うことで得点が取れるようになることは確認できた。

提供された自主学習用教材については、さまざまな学習の内容と方法があることは理解できたが多すぎて手が付けられなかったとの声があり、与えすぎても消化できなかったようである。シャドーイングや音読の必要性も理解されたが、効果の実感がすぐには得られないこともあってか敬遠されたようだ。

スマートフォン用のアプリケーションもインストールして試すまでは行ったが、継続的な使用まで至らなかった学習者が多かった。スマートフォンだから学生が使ってくれるとは限らず、合う合わないもあり、内容や使用方法を理解してもらおうような指導も必要である。

5. 考察

本研究は、延べ10名程度の勉強会参加者の取り組みから、勉強会を挟んで2回の試験の結果を比較したものであり、人数が少ないことに加え、それぞれの学習者が置かれた背景が違うという点から結果を一般化することはできない。

勉強会の前後でのTOEIC-IPテストの結果は総じて向上が見られたのは事実ではあるが、本学部では授業期間内で並行して、資格試験学校による講習会も必修で実施しており、今回独自に行った勉強会のみで成績の向上が証明されたとは言うことはできない。

しかしながら、本研究では、文献[1]にあったように「効果的な学習方法を模索するのは学習者自身」「教師は学習法と学習者の接点を提供する」という点から、さまざまな学習方法へのアプローチを提供することができた。直接的に結果に結びついたかは不明であるが、学習者自身がいろいろな選択肢から選んで必要な学習方法の実践につなげてくれることを期待したい。

ITCの活用は最低限となった。通常の授業でも使用している機能や環境での利用が中心であった。勉強会の実施は、英語の専門でもない教員が開催するのは負荷が高い。学生にとっても効果がありモチベーションにつながる理由がある学生は、目の前で教えてくれてわからないところをすぐに解説してくれて理解できるからという至って当然のことを答えてくれた。文献[3]に述べられていたように「言語熟達度の低群」では「リメディアルな英語学習」が行われる傾向にあるがモチベーションは高くなく、教員から直接教わる授業形式が好まれる。ITCの活用により、授業形式と同様の効果が得られやすい仕組み

が必要である。

6. おわりに

本来目指すべきところは、国際教養学部が目指すグローバルな人材に必要な英語力の向上である。そのために、個々の学生が必要と考える技能を高め知識を獲得し実践的にコミュニケーションに活用できるようになるために、効果的な学習方法を見つけ、授業外での学習により取り組めるようになる必要がある。そのためには、学生が取り組みたい内容で有用な内容が何であるかを知らせ、インタラクションを伴う外国語の環境の提供から、学びのモチベーションを生み出し、分析的な学習から経験的な学習への主体的な移行と発展が行えるように、教員が接点を作り提供していくことが重要である。

また、さまざまなITCを活用することで、授業がより発展的に行え、授業外学習が時間や場所を問わずに行え、より意識の高いモチベーションにつながる可能性を今後も追求して取り組みたいと考えている。

[参考文献]

- [1] 青木信之, 樋口慎一, 池上真人, 「日本人大学生が求める英語学習方法」, 中国地区英語教育学会研究紀要 31(0), 21-30, 2001
- [2] 杉浦理恵, 「大学生の英語学習に対する捉え方—ナラティブフレームを用いた考察」, 東海大学高等教育研究(北海道キャンパス)第16号, 2017年
- [3] 松林世志子, 「日本人英語学習者のモチベーションと英語学習方法に関する質的研究—教職課程を履修している大学生へのインタビューを通して」, 言語学習と教育言語学: 2016年度版, 日本英語教育学会・日本教育言語学会合同編集委員会編集, 早稲田大学情報教育研究所発行, 2017年3月31日
- [4] 石橋嘉・三輪眞木子, 「英語専攻の日本人大学生における授業外英語学習の実態調査—英語学習内容のカテゴリ分析と言語熟達度との関係—」, 日本教育工学会論文誌 38(1), 039-048, 2014

(2020.1.20 受稿, 2020.2.7 受理)

〔抄 録〕

本研究では、大学生に特に授業外での英語学習の必要性について議論するとともに、その支援を ICT を活用して行うことを検討し、勉強会を実施することで実践した。勉強会を行った結果から、英語学習において必要な学習の方法や内容を提供でき、自主学習へのモチベーションにつなげることができた。また、勉強会の運用や演習問題の提供において ICT を活用して行うことができた。学生有志が勉強会に参加して取り組むことは効果的ではあるが、教員の負荷が高いため、今後は自主学習においても ICT を活用した仕組みを検討することで、勉強会と似た効果を得られるようにすることも必要である。